



昔アメリカ、今日本！

戦後アメリカの永住権は世界の憧れだったが高嶺の花であった。

申請してから最低5年かかったが、それで取得出来れば幸運であった。

私は1974年に申請したが縁あってわずか3か月で取得、短期取得の記録を作った。

当時テキサス州ダラスから羽田の20倍の世界最大の飛行場(Dallas Fort Worth Airport)を建設する計画があり使節団が来日、青年会議所で説明会が開かれ、私が通訳をした。

総工事費は円換算(1ドル360円)で8兆円、丁度日本の1年間の国家予算と同額であった。

アメリカ50州の内一つの州の飛行場の建設費が日本の国家予算と同じであることを知ったとたん、私はアメリカで生きる決心をした。

私はただ心の中で決心しただけで誰にも話していなかったが、翌日アメリカに留学していた友人から、L.A.で自動車修理工場が安く売りに出ているから買わないかと連絡があった。

私は自動車運転免許さえ持っていないのに、我を忘れて即座に買うと返事をした。

工場を経営するには永住権か、ワーキングビザが無いと罰せられる(強制送還)ことを知り弁護士に永住権申請をしてもらい、明日にでも欲しいと言うと、増田さんは何もご存知ないようですね、と言われ最低5年かかると言われた。

ダラスの使節団が青年会議所に来た時、前副大統領のハンフリー氏の従妹さんでミリアム・ハンフリーさんというご婦人が銀座に買い物に行きたいと言うのでいろいろお世話をしたことがあった。

帰国する時に会いたいというので帝国ホテルに行くとご主人がかぶっていたテキサスのカウボーイハットを記念にくれた。

そしてアメリカに来て困ったことがあったら電話して下さいと言ってプライベート番号をくれた。

永住権に5年もかかったのでは仕事にならないので、ハンフリーさんの言ったことを思い出し、電話をして事情を話したら、L.A.の移民局の局長はハンフリー前副大統領時代の子飼いの部下だから話して上げると言われ、申請書のコピーを送って下さいと言うのでファックスした。

何日か経って弁護士が慌てふためいて直ぐ事務所に来て下さいと言うので飛んでいくと、インタビューの呼出状が来た。増田さん何かしたのですかと言うのでハンフリーさんのことを話したら、直ぐ調べてくれて前副大統領が推薦状を書いていることが分かった。

短期永住権取得の新記録ですよ、と言われた。

そんなに貴重なアメリカの永住権が今は返上ラッシュになっている。

私のところへアメリカを捨てて本国に帰還する話と、どうしたら日本の永住権が取れるのかの話が増え続けている。

一度日本に来た人はみんな「日本は神の国」という。

NY ダウが下がってもニッケイは上がる日が多くなっているのは、お金(マネー)も神の国が好きなのだろうか。

明日からの「増田塾」の講義に、今こそ知ろう「日銀の秘密」と「天皇の国、日本」がある。

日本人なら、世界のいかなる国とも全く異なる日本を知っておいた方がいいのではないかな。